

琉球大学学術リポジトリ

「文化化」のプロセスから捉える「しまくとうば」の継承 -ニュースピーカーのライフストーリー研究から-

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学 公開日: 2024-06-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮城, 朋世 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002020389

様式第7号

学 位 論 文 要 旨

学位論文題目

「文化化」のプロセスから捉える「しまくとうば」の継承
—ニュースピーカーのライフストーリー研究から—

琉球大学大学院
人文社会科学研究科

比較地域文化専攻

学籍番号



氏 名 宮城 朋世

学位論文要旨（横書き楷書、ワープロ可、字数800字程度）

本研究は、「先住民の方法論」(indigenous methodologies)の視点に立ち、「しまくとぅば」ニュースピーカーの継承プロセスを「文化化」(enculturation)の視点から考察し、「しまくとぅば」を再生する意義を社会的機能の側面から捉え直すものである。「文化化」は、歴史的に抑圧された経験を持つ先住民コミュニティにおいて自身のルーツの文化的要素とつながり、そこに意義を見出していく脱植民地化のプロセスの一つとされる。本研究では「文化化」のプロセスが「しまくとぅば」継承の文脈においてどのように見られるのかをライフストーリーとして記述し、さらに、それぞれの語りを SCAT(Steps for Coding and Theorization)を用いて分析することで、「文化化」を軸にした「しまくとぅば」の継承プロセスとその機能を概念的に捉えることを目指した。また、その分析結果をもとに、今後「しまくとぅば」の継承アプローチとして重要と考えられる視点を考察した。

研究の結果「文化化」のプロセスから「しまくとぅば」の継承を捉えると、ニュースピーカーには主に三つの社会的機能があると考えられた。一つは、自分らしさの獲得といったような、エンパワーメントの側面であり、二つ目は家族や身近な話者とのつながりの充実であった。そして三つ目は沖縄に対する関心の高まりと社会参画意識の高揚であった。

そして分析の結果、ニュースピーカーの「しまくとぅば」継承の軸となっている要素は「沖縄」という集団的アイデンティティに対する思いよりも、極めて個人的な経験であると考えられた。したがって、ニュースピーカーの継承プロセスとして最も重要なことは身近な話者と「しまくとぅば」を介したつながりをもつことであり、世代間のつながりの中に「しまくとぅば」が意味づけされることが重要であると結論づけた。また、身近に話者がいなくなることが想定される将来的には、本研究で提示したような社会的機能に価値を見出すことが必要になると考察した。